

年間第26主日

「もし片方の手があなたをつまづかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。⁴⁵もし片方の足があなたをつまづかせるなら、切り捨ててしまいなさい。

マルコ9。43-45

今日の福音書は、私に2つのことを考えさせてくれます。一つ目は、改心についてのことです。罪を犯すことをやめ、愛することを始めるための改心です。罪を犯さないというだけで十分ではなく、愛し始めなければなりません。つまり、私は善良で正しい人間だというだけで十分ではないと思います。私は悪いこともしない、自分を愛している、自分を大切にしている、というだけで十分ではないと思います。

世の中のほとんどの人は、ただ生きていただけ、子供を産み、育て、そして死んでいただけだと考えているのではないのでしょうか？しかし、私たちはまた、他の人を愛するというもう一つのステップを行うように求められています。真の愛とは、与えること、そして自分を犠牲にすること、時には、苦しむことを意味します。本当に愛すれば、苦しみ、傷つきます。かつて**聖アウグスティヌス**は、「**罪とは愛の欠如である**」と言いました。ですから、もし私たちが愛さなければ、私たちもまた罪を犯していることになります。

時々、私たちの心は多くの世俗的なものによって凍りつき、自分のことだけに集中して周りで起こっていることが見えなくなってしまいます。私たちは、イエスの生きた愛によって再び暖められ、少しずつ神と人々を愛し始めましょう。誰でも愛することができます。私たちの心の中には、神からの愛の種があります。私たちはそれに気づき、日々成長させていくだけです。

今日の福音書からの2つ目の重要な教訓は、永遠の救いよりも大切なものはないということです。永遠の救いを得るためにはどんな犠牲も大きすぎることがないということです。手や足の価値は、永遠の命の価値に比べれば何でもないところのです。

さて、私の知り合いに、右足に深刻な感染症を患っているがいました。ある日、医師は彼に壊疽した足を切断しなければならぬと告げました。「命を失うくらいなら、足を失った方がいい」と言われました。

彼は悩みしたがついに医師のアドバイスを受け入れる決断をし、右足を切断しました。現在、彼はまだ生きており、元気にしています。

もちろん、イエス様がおっしゃったのは、文字通り、私たちの行動が他の人をつまずかせ、他の人に危害を与えていたら、手や足を切り落とすなさいということではありません。むしろ、他の人に罪を犯させるような行動を根本的に**断つ試み**をしなければなりません。目についても同様です。もし私たちの感情が問題を引き起こしていたなら、私たちは考え方を変えるために抜本的な措置を取らなければなりません。

私たちはまた、神の愛が私たちのすべての罪よりも大きいことを忘れてはなりません。神の憐れみは、私たちが想像する以上に広く、深いものです。神の愛を疑うよりも、神の愛を讃える方がよいのです。

最後に申し上げたいことは私たちは、それぞれが自分の人生を生きなければならないということです。ひとりひとりが自分で決断しなければならないのです。「もし片方の手があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。⁴⁵もし片方の足があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい」というイエスの言葉は、私たちに何を語っているのでしょうか。地獄の火の中に投げ込まれるよりも、そのようにして神の国に入る方がよい」とおっしゃっています。そのときイエスは私たち一人一人に「**私はあなたを愛している。あなたには本当に幸せになってほしいし、私はあなたを助ける。**」と語りかけて下っていると私はそのような意味だと強く考えています。皆さん一緒に今日の福音について考えてみましょう。

